

5 / 1日、2日、3日、4日、5日、8日、9日、15日、16日、22日、23日、29日、30日

新緑の季節、5月がやってきました♪
今年もゴールデンウィークのお出かけはままなりませんが、
天気がよければ星空を観測してみましょ♪
夜空は無限大！どれだけたくさんの人の視線をあつめても、
密になりませんかからね (^o^)

コンパルホール 星空通信

2021年 5月号



【星空のみどころ】

5月は惑星が楽しみましょ♪。土星・木星・水星・金星、それぞれ観望の好機をのがさないようにチェック♪

また5月26日は、今年最も地球に近い満月の日であり、さらに、日本全国で皆既月食も観察することができます。

惑星と月の競演、今月もぜいたくな星空を満喫できそうですね。

屋上・天体観測ドーム

東経131度36分50秒、北緯33度13分55秒に位置するコンパルホール。屋上(7階)には、直径5メートルの電動回転式ドームがあります。最大倍率約275倍のニュートン式300ミリメートル反射式望遠鏡を1台、さらに、100ミリメートル屈折式望遠鏡4台を備えています。観望時には指導員が星空の解説をおこない、望遠鏡の操作説明もします。大分の街中に、ふらりと星を見にいっちゃいませんか？

今月の惑星情報

水星

日の入後の西の低空に位置しています。5日から26日にかけて高度が上がり、観察しやすくなります。

金星

日の入り後の西の低空に位置しています。見かけの位置が太陽に近く、観察は難しいでしょう。

火星

宵の西の空に見え、明るさは1.6等から1.7等。

木星

みずがめ座を東に移動しています(順行)。日の出前の南東の空に見え、明るさはマイナス2.2等からマイナス2.4等。

土星

日の出前の南東～南の空に見え、明るさは0.7等から0.6等。

【TOPIC】

星の色を観察してみよう♪



5月は木々の緑が目うれしい季節ですが、木々の色のニュアンスは、年間を通じていろいろなふうに移り変わり、さまざまなバリエーションをもっています。同じように、夜空に輝く星たちにもいろいろな色の違いがあることをごぞんじですか？星の色の違いはなぜ生まれるのでしょうか。

実は、星は表面温度に差があるため、さまざまな色として見えています。温度の低いときには波長の長い赤い光がもっとも強く、温度が高くなるほど波長の短い青い光がより強くなっていくのです。

たとえば比較的低い温度(3000℃ほど)のさそり座・アンタレスは赤っぽく見えますが、かなり高温(20000℃以上)のおおいぬ座・シリウスは青白っぽく見えます。6000℃くらいであれば黄色っぽく見えるそうです。また、ベガは9500℃ほどで白く見えます。これを利用すれば逆に、星の光をプリズムを通して分解したスペクトルで調べて、支配的な色から遠い星の表面温度も推定することもできます。

目立つ星なら肉眼でも星の色を観測できるはずですので、じっくり見ながら星の温度に思いをはせてみましょう♪

★曇天時のお問い合わせ★

097-538-3700 (コンパルホール)

